

令和 7 年度 自己点検・評価報告書

令和 8 年 3 月
獨協医科大学附属看護専門学校三郷校

令和7年度 自己点検・自己評価を実施して

本校は、獨協医科大学埼玉医療センターをはじめとした地域医療に貢献できる優れた看護師を輩出することを使命として開校し、11年目となります。2025年6月20日には、医大関係者ならびに、これまで本校の教育活動を支えてくださった地域の方々に感謝を伝える10周年記念式典を催すことができました。この1年は、これまでの10年間の教育活動を踏まえ、さらなる「NEXT10」に向けて、気持ちも新たに歩み出す年となりました。

本校は「豊かな人間性を備え、多様な状況に適応し、看護実践ができる看護師を育成し、地域とともに育つ学校」をめざします。そのため看護師として、また人間として身につけたい問題発見力・情報収集力・計画力・ロジカルな思考力・課題解決力・俯瞰力・自己評価力・自己肯定力を育成するための教育方法にプロジェクト学習を取り入れています。学生たちには、本校での3年間の教育を通して育成・強化されたこれらの能力を活かして、多様化・複雑化する社会に柔軟に適応し働き続け、地域の方々のために看護師としての役割を果たしてほしいと願っています。

今回、自己点検・自己評価を行ったことによって、改めてわかったことは、10年の取り組みで着実に結果を残し、今後も積み重ねていくべき取り組みと、これまでの取り組みでは成果が見えず、修正・変更が必要な取り組みが少なからずあるということです。変わりゆく社会の中で、本校のめざす教育実践のために、「変えること」「変わること」を恐れず、「変えていくべきこと」と「変えてはいけないこと」の見極めを違わず、自己点検自己評価結果及び関係者評価を踏まえて課題改善に取り組み、三郷校のさらなる発展につなげて参りたいと思います。

今後も、より一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年3月

獨協医科大学附属看護専門学校三郷校

学校長 奥出 尚子

目次

1. 学校の現況	1
2. 教育理念・教育目的・4つのポリシー	4
3. 令和7年度 学校運営方針	6
4. 自己点検・自己評価項目の達成と取り組み状況	7
1) 理念・目的・期待する卒業生像	9
2) 学校運営	10
運営方針	
事業計画	
運営組織	
人事・給与制度	
意思決定システム	
情報システム	
課題と今後の改善方策	
3) 教育活動	11
目標の設定	
教育方法・評価等	
成績評価・単位認定等	
資格・免許の取得の指導体制	
教員・教員組織	
課題と今後の改善方策	
4) 学習成果	12
就職率	
資格・免許取得率	
卒業生の社会的評価	
課題と今後の改善方策	

5) 学生支援	13
就職等進路	
中途退学への対応	
学生相談	
学生生活	
保護者との連携	
卒業生・社会人	
課題と今後の改善方策	
6) 教育環境	15
施設・設備等	
学外実習・インターンシップ	
防災・安全管理	
課題と今後の改善方策	
7) 学生の募集と受け入れ	16
学生募集活動	
入学選考	
学納金	
課題と今後の改善方策	
8) 財務	17
予算・収支計画	
監査	
財務情報の公開	
課題と今後の改善方策	
9) 法令等の遵守	18
関係法令・設置基準等の遵守	
個人情報保護	
学校評価	
教育情報の公開	
課題と今後の改善方策	
10) 社会貢献・地域貢献	19
社会貢献・地域貢献	
ボランティア活動	
課題と今後の改善方策	

1. 学校の現況

1) 学校名及び設置者

学校名:獨協医科大学附属看護専門学校三郷校

設置者:学校法人 獨協学園 理事長 猪口 雄二

2) 所在地及び認可年月日(所轄庁名)

所在地:埼玉県三郷市彦成3-11-21

認可年月日:平成27年2月13日(埼玉県知事)

3) 沿革

2014(平成26年)8月 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校学校指定(文科省)

2015(平成27年)4月 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校開校

入学定員:40名 3年課程 収容定員:120名

初代学校長 林雅敏就任

2015(平成27年)10月 指定校推薦・社会人入学試験導入

2016(平成27年)8月 子ども大学みさと(三郷市)本校にて開催

2016(平成28年)10月 公募推薦入学試験導入

2018(平成30年)8月 入学定員変更申請認可

2019(平成31年)4月 獨協医科大学附属専門学校三郷校定員変更

入学定員:80名 収容定員:240名

第2代学校長 上田善彦就任

2019(令和1年)6月 学校関係者評価委員会 設置

2019(令和1年)9月 「大学等における修学の支援に関する法律による修学支援の対象機関となる大学等(確認大学等)」として公表

2021(令和3年)4月 第3代学校長 小林佳志子就任

12月 カリキュラム改正申請認可

(2022(令和4年)4月 8回生より実施)

2023(令和5年)12月 放送大学との連携協力の締結

2024(令和6年)4月 開校10周年

2025(令和7年)4月 第4代学校長 奥出尚子就任

2025(令和7年)6月 開校10周年記念式典・祝賀会

4) 課程・学科の構成（令和7年4月1日現在）

課程名	学科名	開設年月日	修業年限	入学定員	収容定員
医療専門課程	看護学科	平成27年4月	3年	80名	240名

5) 学生・教員数及び充足率（人、％）

	収容定員	在籍数	定員充足率	専任教員数
令和7年5月1日	240	228	95.0％	20
令和6年5月1日	240	237	98.8％	21
令和5年5月1日	240	241	100.4％	20
令和4年5月1日	240	244	101.7％	21

6) 就職・進学者数（人）※令和7年度は未確定

年度	卒業生数	就職		進学	その他
		埼玉医療センター	他施設		
令和7年度	76	61	15	0	0
令和6年度	71	58	12	1	0
令和5年度	83	80	1	2	0
令和4年度	83	75	5	0	3

7) 看護師国家試験合格率（新卒のみ）（人、％）

	合格者数／受験者数	合格率	全国平均合格率
令和7年度卒（9回生）	67／76	88.2％	88.3％
令和6年度卒（8回生）	71／71	100％	90.1％
令和5年度卒（7回生）	78／83	94.0％	87.8％
令和4年度卒（6回生）	80／83	96.4％	90.8％

8) 入学試験出願者数（人）

実施年度	指定校	公募推薦	社会人	一般A	一般B	一般C	総数
令和7年度	16	47	6	33	11	6	119
令和6年度	15	48	4	34	9		110
令和5年度	13	62		55	5		135
令和4年度	13	52		78	16		159

9) 入学試験合格者数 (人)

実施年度	指定校	公募推薦	社会人	一般 A	一般 B	一般 C	総数
令和 7 年度	1 6	3 3	1	2 5	8	4	8 7
令和 6 年度	1 5	3 1	2	2 4	5		7 7
令和 5 年度	1 3	2 9		4 4	4		9 0
令和 4 年度	1 3	2 7		6 1	6		1 0 7

10) 教員の研修・学会発表等

(1) 研修等

研修名	場所	日時	参加者
臨床指導者・教員合同研修 テーマ「記録に頼らない実習指導の実際」 講師：中部国際医療学院学校長 糸賀暢子	本校	R7. 8. 5	20 名 外部 17+名
本校教員向け夏季研修 テーマ「評価を変えれば教育が変わる」 講師：中部国際医療学院学校長 糸賀暢子	本校	R7. 8. 6	20 名
日本看護歴史学会学術集会 「日本型看護を再校する - 日本の歴史・文化をふまえた看護の展望」	千葉県立保健医療大学 幕張キャンパス	R7. 8. 9 ～8. 10	3 名
派遣研修「プロジェクト学習指導の実際」	中部国際医療学院	R7. 11. 13	2 名
令和 7 年度 SD 講習会 虐待対応向上に関する研修会 「BEAMS Stage1 医療機関向け虐待対応プログラム」	獨協医科大学 関湊記念ホール	R7. 10. 6	1 名
派遣研修「プロジェクト学習指導の実際」	千葉県立鶴舞看護専門学校	R8. 1. 22	3 名
派遣研修「プロジェクト学習指導の実際」	千葉県立鶴舞看護専門学校	R8. 2. 12	3 名

(2) 獨協医科大学職員 on-line セミナー

テーマ	期間
「令和 5 年度決算報告及び決算分析」 on-line セミナー	2024/09/10～2025/08/31
ループリック作成方法講習会	2024/04/01～2025/02/28 (延長)
「管理者向け風通しの良い職場づくり」	2025/03/28～2025/09/30
入試面接委員の応対力向上研修	2024/04/01～2025/02/28 (延長)
LGBTQ 講演会「特に、LGBTQ の中の T の話」	2025/01/21～2026/02/28
「令和 6 年度決算報告」オンラインセミナー	2025/03/18～2026/03/31
獨協医科大学教育セミナーシンポジウム 「AI を活用した医療・教育の現状と未来」	2026/2/16

(3) 学会発表・誌面発表等

演題・発表者	学会名・場所	日時
「3 年課程看護専門学校看護教員のキャリア成熟と同僚性の関連」 黒子菜緒子	看護教育学学会 北海道日赤看護大学	R7. 8. 29～30

2. 教育理念・教育目的・4つのポリシー

教育理念

獨協医科大学の建学の理念に則り、患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護師を育成する。

教育目的

豊かな人間性を備えた、看護実践力のある看護師を育成する。

ディプロマポリシー

- 1) 専門職業人としての倫理感に基づく看護を実践できる。
- 2) 看護の対象を総合的に理解し、科学的な知識・技術に基づいた看護を実践できる。
- 3) 保健・医療・福祉チームの一員として、看護師の役割と責任をもって協働できる。
- 4) 看護の発展や質の向上に貢献できるよう、主体的学修能力を身につける。
- 5) 国際的視野を持ち看護を実践できる。

カリキュラムポリシー

- 1) 本カリキュラムはナイチンゲールの看護論を基盤に、人間・環境・健康・看護の4つの概念で構成する。
- 2) 看護の実践的・専門的職業教育を通し、人間形成を目指して講義や演習においても実践現場を想起し、生命に関わる職業である看護師の責務を考えられるようにする。
- 3) 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働をふまえ、高度急性期の医療から地域での療養生活において、対象やその場の状況を適切に判断し質の高い看護ができる看護師を育成するよう科目を構成する。
- 4) 共同学習により、多様な価値観にふれながら課題を探究し、変化する社会や人々のニーズをふまえ保健・医療・福祉チームにおける連携と協働、倫理観を身につける。
- 5) 看護に必要なコンピテンシーを育成するために、プロジェクト学習方法を取り入れ、課題発見情報リサーチをもとに論理的に思考を展開させ、課題解決していく力と主体的な学習する姿勢を身につける。
- 6) 実習においては、国際的視野を持ち多様な対象との関係形成を基盤として看護実践とリフレクションによる体験の意味づけにより個別の状況に応じた看護を学ぶ。
- 7) 学修成果の評価は、到達目標と成果を示す試験・レポート・グループワークや授業への参加状況、実習評価等を含め、多様な方法で総合的に行う。加えて、学修の取り組みについて学生自身が自己評価を行い、課題解決に向けて取り組む。

アドミッションポリシー

- 1) 看護師を目指す意志を明確に持っている人
- 2) 看護を学ぶ上で必要な基礎学力を有する人
- 3) 人間・健康・環境や人々の生活に関心がある人
- 4) 他者を尊重し人との関わりができる人
- 5) 自ら考え意見を表現できる人
- 6) 地域社会や国際社会に貢献する意欲のある人

アセスメントポリシー

アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに基づいて、組織レベル・教育課程レベル・授業科目レベルの段階で学修成果を把握し評価・検証する。

1) 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校（組織）レベル

アドミッションポリシーに基づいて入学した学生が、卒業までに身につけるべき資質・能力（ディプロマポリシー）を満たし、社会に貢献する人材に成長しているか評価し、アドミッションポリシー・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーの見直し及び教育の質保証に役立てる。

2) 教育課程レベル

ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づく教育課程で編成された学修成果を上げているか、また卒業までに身につけるべき資質・能力（ディプロマポリシー）を満たす人材にどれだけ近づいているか評価し、カリキュラム改善・学修支援に役立てる。

3) 授業科目レベル

ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づく学修内容で構成され、学修成果を上げているか科目ごとに評価し、授業改善・学修支援に役立てる。

3. 令和7年度 学校運営方針

獨協医科大学がNEXT50に掲げている「学生、教職員に魅力ある大学」、「未来を拓く良質な医療人の育成のもと、輝き続ける大学」をふまえ、医科大学附属の豊かな教育環境と地域の協力を得ながら魅力ある学校づくりを進める。教育の要としてプロジェクト学習を活用し、高度急性期医療から在宅で療養するあらゆる対象と変化する状況を理解し、変化する対象とその場の状況を判断し適切な看護を実践できる看護師を育成する。

1. 教育・学生支援

- 1) 学生が生涯学習し続ける基礎的力をつけ、変化する対象とその場の状況に応じた看護を実践できるように、プロジェクト学習の定着をはかり実習で活用できるようにする。
 - ・教員のプロジェクト学習を用いた実習指導のスキル向上をめざした研修を行う。
 - ・プロジェクト学習を用いた学生の学習状況を共有し課題解決策を明らかにする。
 - ・実習施設とプロジェクト学習を用いた教育について共通理解し、実習指導の在り方を共有する。
- 2) カリキュラム評価により教育の成果と課題を明確にし、カリキュラム改正の方向性を見出す。
- 3) 体系化したキャリア教育を実施し、学生がキャリアビジョンをもち専門職としての資質を磨き続けることをめざす。
- 4) 教育力向上を目的とするFDと人事交流を実施する。

2. 研究

教育の質向上をめざし、教員の教育実践に関わる研究的取り組みと自己研鑽を支援する。

- 1) 共同研究および教育実践報告を支援する。
- 2) 授業研究の体制を構築する。

3. 運営

地域の人々や関連機関・施設の協力を得て、地域とともに育つ学校づくりを進める。

各自が、組織運営に関する方針を共通認識し、自分事として秩序をもって学校運営・教育を担うことで組織力向上をめざす。

- 1) 学生・教職員の力をいかした地域共生協創活動を継続する。
- 2) 10周年記念事業を通して人と地域との絆を深める。
- 3) 保護者・卒業生等の外部の意見を踏まえた課題改善に取り組む。

4. 自己点検・自己評価項目の達成と取り組み状況

評価方法

評価者：校長以外の教職員全員（26名）（回収率 100%）

評価時期：年 1 回（2 月）

評価方法：私立専門学校等評価研究機構「専修学校のための学校評価ガイドライン」（平成 25 年 3 月文部科学省策定）にもとづく自己点検・自己評価を行う。

4 段階評価と評価の根拠を記載する。

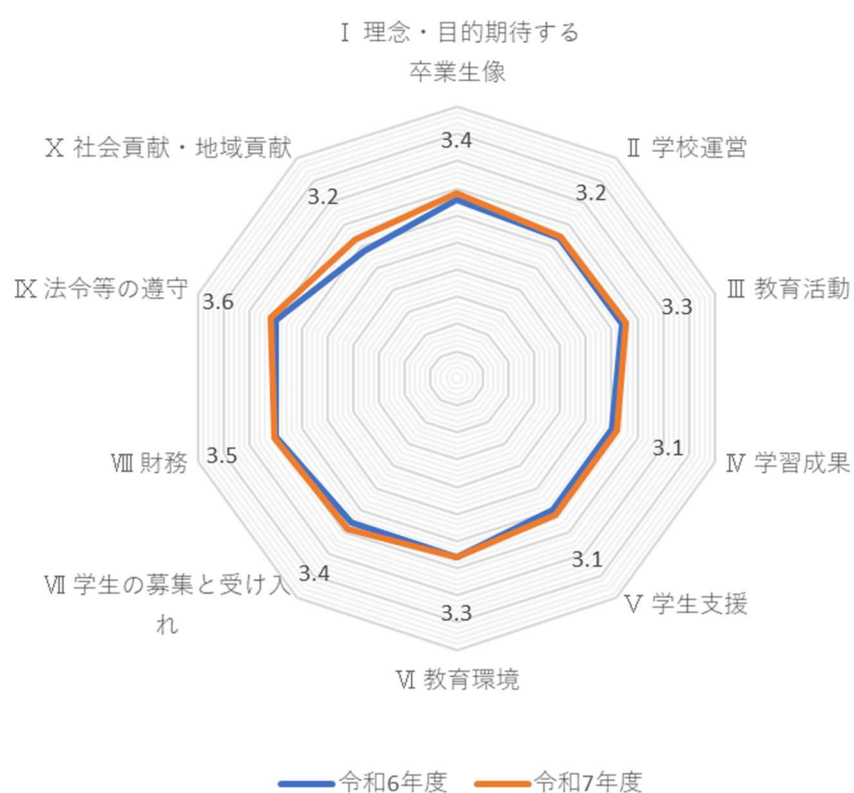
評価尺度：4 点適切 3 点ほぼ適切 2 点やや不適切 1 点不適切

自己点検・自己評価の領域区分と評価項目

大項目	中項目	小項目	大項目	中項目	小項目	
Ⅰ 理念・目的・期待する卒業生像	1) 理念・目的・期待する卒業生像	1 理念・目的・期待する卒業生像は、定められているか	Ⅴ 学生支援	4) 学生生活	30 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	
		2 期待する卒業生像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか			31 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	
		3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか			32 学生の生活環境支援体制を整備しているか	
		4 社会ニーズ等を踏まえた将来構想を抱えているか			33 課外活動に対する支援体制を整備しているか	
Ⅱ 学校運営	1) 運営方針	5 理念等に沿った運営方針を定めているか	5) 保護者との連携	34 保護者との連携体制を構築しているか		
	2) 事業計画	6 理念等を達成するための事業計画を定めているか	6) 卒業生・社会人	35 卒業生への支援体制を整備しているか		
	3) 運営組織	7 学校のための組織を整備しているか		36 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか		
	4) 人事・給与制度	8 人事・給与に関する制度を整備しているか		Ⅵ 教育環境	1) 施設・設備等	37 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか
	5) 意思決定システム	9 意思決定システムを整備しているか	2) 学外実習・インターンシップ等		38 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	
	6) 情報システム	10 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3) 防災・安全管理		39 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	
Ⅲ 教育活動	1) 目標の設定	11 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	Ⅶ 学生の募集と受け入れ	1) 学生募集活動	40 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	
		12 学科毎に修行年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか			41 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	
	2) 教育方法・評価等	13 教育目的・教育目標に沿った教育課程を編成しているか			42 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	
		14 教育課程について外部の意見を反映しているか		2) 入学選考	43 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	
		15 キャリア教育を実施しているか			44 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	
		16 授業評価を実施しているか		3) 学納金	45 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	
	17 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	46 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか				
	4) 資格・免許の取得の指導体制	18 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づいているか	Ⅷ 財務	1) 予算・収支計画	47 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	
		19 資格・免許取得の指導体制はあるか		48 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか		
	20 資格・要件を備えた教員を確保しているか	2) 監査		49 私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実行しているか		
21 教員の資質向上への取組を行っているか	3) 財務情報の公開	50 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し適切に運用しているか				
22 教員の組織体制を整備しているか	1) 関係法令、設置基準等の遵守	51 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか				
Ⅳ 学習成果	1) 就職率	23 就職率の向上が図られているか	Ⅸ 法令等の遵守	2) 個人情報保護	52 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	
	2) 資格・免許取得率	24 資格・免許取得率の向上が図られているか		53 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか		
	3) 卒業生の社会的評価	25 卒業生の社会的評価を把握しているか		54 自己評価結果を公表しているか		
Ⅴ 学生支援	1) 就職等進路	26 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか		3) 学校評価	55 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	
		27 退学率の低減が図られているか			56 学校関係者評価結果を公表しているか	
	2) 中途退学への対応	28 退学率の低減が図られているか			4) 教育情報の公開	57 教育情報に関する情報公開を積極的にしているか
	3) 学生相談	29 学生相談に関する体制を整備しているか		Ⅹ 社会貢献・地域貢献	1) 社会貢献・地域貢献	58 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
		29 留学生に対する相談体制を整備しているか			2) ボランティア活動	59 国際交流に取り組んでいるか
		60 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか				

（私立専門学校等評価研究機構 専修学校のための学校評価 参考）

自己点検自己評価結果



I 理念・目的・期待する卒業生像

中項目	小項目		評価	根拠
1) 理念・目的・期待する卒業生像	1	理念・目的・期待する卒業生像は、定められているか	3.7	理念・目的・4つのポリシーを定めており、HP・学校案内・説明会等、ありとあらゆる機会を使って積極的に周知の努力をしている。
	2	期待する卒業生像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3.4	期待する卒業生像は「看護実践のできる看護師」であり、臨床現場が求めるニーズに込えている。
	3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3.3	記録の書ける看護師ではなく、看護実践ができる看護師を育成するため教育方法にプロジェクト学習を取り入れている。
	4	社会ニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3.2	18歳人口が減少し入学定員の確保が難しい中、学生主体で開催するオープンキャンパスや個別に対応できる公開授業の回数を増やして看護師希望者数の確保に力を尽くしている。
		平均	3.4	
課題	- 掲げている4つのポリシーうち、アセスメント・ポリシーの遵守 - 教員のプロジェクト学習に対する理解と実践力のバラツキの是正			
今後の改善方策	- アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに基づく、組織レベル・教育課程レベル・授業レベルで学修成果を評価する取り組みの構築 - 教員のプロジェクト学習を用いた教育力を強化する			

II 学校運営

中項目	小項目		評価	根拠
1) 運営方針	5	理念等に沿った運営方針を定めているか	3.4	医科大学の理念や社会ニーズを踏まえ、年度方針や事業計画を定めており、周知されている。
2) 事業計画	6	理念等を達成するための事業計画を定めているか	3.3	
3) 運営組織	7	学校のための組織を整備しているか	3.3	組織体制は整備されている。6つの委員会と教員全員がメンバーの教学委員会の中に8つのWGがあり、全教員のWG取り組みを通して、組織運営・学生指導等に関わっている。
4) 人事・給与制度	8	人事・給与に関する制度を整備しているか	3.2	組織として整備されており、医大の人事部と連携し、制度の適切な運用がなされている。
5) 意思決定システム	9	意思決定システムを整備しているか	3.2	組織として整備されており、三郷校管理委員会、さらに医大の委員を含めた三郷校運営委員会が、規定に則り最高決定機関として機能している。
6) 情報システム	10	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3.0	情報のシステム化は整備されており、医大の情報管理部との連携・サポートシステムも機能している。運用に関しては、個々の教員のスキルのバラつきが課題であり、業務効率化のために教員のスキルアップ研修を強化する必要がある。
		平均	3.2	
課題	・教員の組織人としての意識・帰属意識の醸成 ・教員間の協調・協働 ・教員の情報スキルアップによる業務の質と効率の向上			
今後の改善方策	・教員役割の明確化と業務量の可視化 ・年間計画に基づく業務遂行と協働 ・情報スキルの獲得と活用			

Ⅲ 教育活動

中項目	小項目		評価	根拠
1) 目標の設定	11	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3.4	教育課程の編成方針、実施方針は定められている。カリキュラム評価を行い、見直しをする必要がある。
	12	学科毎に修行年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3.4	シラバスの中に学年毎の到達目標が示されている。各科目ごとに教育到達レベルを示しているが、評価が十分にできていない。
2) 教育方法・評価等	13	教育目的・教育目標に沿った教育課程を編成しているか	3.2	カリキュラム評価が部分的であり、また評価結果をどのように教育に反映していくかの検討が必要である。
	14	教育課程について外部の意見を反映しているか	3.1	附属病院との意見交換結果を、教育内容や方法に反映している。また、非常勤講師へ授業後の意見を聴くなど情報共有に努めた。
	15	キャリア教育を実施しているか	3.3	キャリアプロジェクトにより、キャリア教育を実施した。さらに教科内においてもキャリア教育を意識した支援を全体で行っていく必要がある。
	16	授業評価を実施しているか	3.5	アンケート協力の周知を図り、回答率は上昇した。回答結果から、改善に向けた取り組みを行う。
3) 成績評価・単位認定等	17	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3.3	学生生活のしおり及びシラバスの中で明確に示している。規定通りの実施・運用に努めたが、教員の理解が十分でなかった可能性がある。
4) 資格・免許の取得の指導体制	18	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づいているか	3.5	看護師国家資格を得るための教育課程を明確に位置づけており、その規定に基づき運営している。
	19	資格・免許取得の指導体制はあるか	3.3	指定規則に基づき、適切な人員配置により教育支援を行っている。国家資格取得においては、1年次からの支援を強化する必要がある。
5) 教員・教員組織	20	資格・要件を備えた教員を確保しているか	3.2	資格・要件を満たしていない教員は、在職中に要件を満たすよう大学に行

				っている。
	21	教員の資質向上への取組を行っているか	3.1	経験年数に応じた研修参加への呼びかけや、目標管理を用いた自己研鑽により資質向上を図っている。
	22	教員の組織体制を整備しているか	3.0	委員会組織の一部変更から2年目となり、組織運営に関する認識は図れてきた。委員会とワーキングとの情報共有を含めた連携改善を図る必要がある。
		平均	3.3	
課題	・カリキュラム評価の実施と活用方法の検討 ・各教育活動における意図的・体系的なキャリア教育			
今後の改善方策	・課題の共有と、ディプロマポリシーに沿った教育方法の見直し及び教育実践 ・授業評価結果を活かした講師の選定 ・体系化したキャリア教育とOJTを活用した教育実践			

IV 学習成果

中項目	小項目		評価	根拠
1) 就職率	23	就職率の向上が図られているか	3.2	就職率は100%であるが、附属である埼玉医療センターへの不合格者が昨年度8名、今年度7名で1名減っている。不合格者については自己を振り返り、自分にあった就職探しを支援し、内定を得ている。今後も関連施設への就職に向けた対策が必要である。
2) 資格・免許取得率	24	資格・免許取得率の向上が図られているか	3.3	国家試験プロジェクトを企画し、1年次から自ら計画的に取り組んでいけるように支援している。3年生については、学年全体への支援と個別の学習状況に応じた支援を行い100%の合格を目指している。
3) 卒業生の社会的評価	25	卒業生の社会的評価を把握しているか	2.9	病院・学校連携ミーティングを行い、卒業生の状況についても情報共有をしている。その他の社会的評価の把握は行っていない。
		平均	3.1	
課題	・急性期医療を担える看護師の輩出 ・国家試験合格率100% ・社会的評価の把握			
今後の	・急性期看護の実践力強化			

改善方策	・ 国家試験全員合格を達成する教育 ・ 社会的評価を把握する体制の構築
------	--

V 学生支援

中項目	小項目	評価	根拠
1) 就職等 進路	26 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3.1	「自分を見つめ働ける看護師になろうプロジェクト」を企画し、自分にあった進路選択ができるよう支援している。また、就職時の看護実践に対する不安を軽減するために「卒業前技術教育」を計画し、技術の学び直しの機会を提供している。
2) 中途退学への対応	27 退学率の低減が図られているか	3.0	昨年 0.4%、今年度は 2.0%と上がった。昨年、進路等に悩み休学または留年した学生の半数が退学という選択をしたためである。教員間で情報共有し多様化する学生に対し早期に対応するよう努めている。
3) 学生相談	28 学生相談に関する体制を整備しているか	3.2	カウンセリング室や意見箱の設置がある。チューター制を生かし情報共有に努めている。
	29 留学生に対する相談体制を整備しているか	2.7	留学生が 1 名入学したが、家庭の事情で退学した。特別な支援体制はしていなかったが学校生活に支障はなかった。
4) 学生生活	30 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3.3	本校独自の奨学金がある。また、ほかの奨学金や病院アルバイト等の説明を行っている。
	31 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3.3	関連病院の協力を得て健康診断やワクチン接種、カウンセリングを行っている。
	32 学生の生活環境支援体制を整備しているか	3.1	93%の学生が教室・実習室・図書室・PC ネット環境に満足していると回答している。また、教員の学習以外の支援・教員の対応・事務職員の対応について 90.1%の学生が満足していると回答している。
	33 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3.2	79%の学生が課外活動について満足していると回答している。今年度よりキャ

				リアプロジェクトを企画し教科外活動を3か年計画で取り組んでいる。また、地域共生協創検討委員会と学生ボランティア係が協働し、地域の方を対象としたすちゅうーでんとsalonと健康教育を年4回実施している。
5) 保護者との連携	34	保護者との連携体制を構築しているか	3.4	今年度は、学年ごとの保護者会を4回/年実施、毎回30名程度の保護者に参加いただいている。内容は、教育概要・国家試験対策・就職支援についての説明を行い希望者には個別相談を実施している。また、保護者会に参加できない保護者については公開授業を行い個別対応をしている。保護者アンケートの結果をふまえ、就職情報・国家試験対策や日々の学習状況等について情報発信をしていく。
6) 卒業生・社会人	35	卒業生への支援体制を整備しているか	3.1	ホームカミングデーについて、今年度は卒業生就業継続支援として、「在校生との交流や教育に参加する」ことで自己の成長を実感する場として企画し、計16名の卒業生が参加した。参加率は高くないが、参加した学生は、自己の成長を実感し満足度は高かった。また、令和6年度の全卒業生に3年生の卒業前技術教育及び特別講演の参加を呼びかけたが、2名のみの参加であった。職場適応に悩み来校する卒業生にはその都度個別対応している。
	36	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3.0	令和7年度より、入学試験に社会人選抜を実施している。多様性のある学生への支援を今後も検討していく。
		平均	3.1	
課題	・多様性のある学生への支援 ・卒業生の就業継続支援 ・将来展望に基づく留学生支援 ・教育に関する情報発信と保護者との連携			
今後の改善方策	・進路や学習に関する悩みや課題をもつ学生への早期支援 ・卒業生の状況把握と支援体制構築 ・医科大学の協力を得て留学生支援体制を整備			

	・保護者への細やかな情報発信や信頼関係の構築
--	------------------------

VI 教育環境

中項目	小項目	評価	根拠
1) 施設・設備等	37 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3.5	93%の学生が「教室・実習室・図書室・PC ネット環境」に満足していると回答している。学習環境ワーキンググループを中心に経年劣化によるモデル人形・教育用具等の点検・整備を行っている。
2) 学外実習・インターンシップ等	38 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3.2	86.3%の学生が実習施設の環境に満足していると回答している。実習施設には、ねらいをふまえた学習になるように協力を得ている。附属の埼玉医療センターへはインターンシップを兼ねたアルバイトを推奨している。
3) 防災・安全管理	39 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3.4	防災教育の計画的実施・防災マニュアルの作成・三郷市や地域の方と協働した防災訓練に取り組んでいる。
	40 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3.2	通学路・校内消防設備の自主点検を定期的実施しており、また、法定点検も実施している。
	平均	3.3	
課題	・多様な学習のニーズに応える環境整備 ・三郷市や地域の方たちとの協働による危機管理体制の構築		
今後の改善方策	・医科大学や関連病院との協力体制による多様な学習者のニーズに応える環境づくりの検討 ・三郷市や地域の方との協働による危機管理対策の整備		

VII 学生の募集と受け入れ

中項目	小項目		評価	根拠
1) 学生募集活動	41	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	3.4	高校訪問、進学ガイダンス、高校進路指導担当者への説明会を実施している。また、学生の協力を得て、夏季休業中に学生の出身高校へ訪問し、学生の生の声を学校へ届ける取り組みを行っている。
	42	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	3.3	ラインやWEBでの広告を導入し、より高校生がアクセスしやすい環境を整えている。通学圏内で広報活動が手薄であった茨城県の高校に対して広報活動を強化する取り組みを行った。
2) 入学選考	43	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3.5	合格判定基準を定めており、その基準を遵守している。
	44	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3.3	昨年度から社会人入試を取り入れているが、入学者の大半は高校卒業後ストレートで入学してくることを鑑み、授業構築を行っている。
3) 学納金	45	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3.4	デジタル化に伴う教材・教具の整備など学習環境充実のため令和6年度入学生より入学金の値上げと6万円/年の教育充実費を徴収している。増収したそれらを、開校11年を迎えて、空調設備やプロジェクターなど主に電気系統の老朽化による不具合を最小限におさえるため計画的な整備費等に当てている。
	46	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	3.7	募集要項に明記し、適性に行っている。
		平均	3.4	
課題	・18歳人口の減少や大学志向傾向にある現状の中での入学生確保 ・アドミッションポリシーに即した入学生の確保			
今後の改善方策	・本校の強みを活かした教育と募集活動の継続 ・学生のレディネスを把握した教育方法の工夫 ・科目内外の教育活動にプロジェクト学習を取り入れた取り組みの強化			

VIII 財務

中項目	小項目		評価	根拠
1) 予算・収支計画	47	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3.5	教育目標をふまえ医科大学を主体とした単年度予算・中長期計画(基本計画【2年毎】)を策定している。
	48	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	3.5	事業計画に基づき予算を計上し、中間決算・決算・学園定例監査及び外部会計監査を実施の上、執行している。
2) 監査	49	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実行しているか	3.6	外部会計監査・学園定例監査を定期的の実施済みである。
3) 財務情報の公開	50	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し適切に運用しているか	3.6	医科大学全体に含まれ公開している。 (ホームページへの掲載やeラーニング研修の実施)
		平均	3.5	
課題	・ 予算策定の際、教職員全体への情報共有が十分とはいえない。 ・ 予算確定について、教職員全体への情報共有が十分とはいえない。			
今後の改善方策	・ 教職員全体が参加する会議において情報を共有する。 ・ 予算確定後、教職員全体が参加する会議において情報を共有する。			

IX 法令等の遵守

中項目	小項目		評価	根拠
1) 関係法令、設置基準等の遵守	51	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3.6	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っている。
2) 個人情報保護	52	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3.4	「獨協医科大学個人情報保護規程」や「ソーシャルメディア利用に関するガイドライン」等に基づき実施している。
3) 学校評価	53	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3.7	自己点検評価委員会を設置し評価を実施している。
	54	自己評価結果を公表しているか	3.7	毎年自己評価結果をホームページに公表している。
	55	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3.7	学校関係者評価委員会を設置し評価を行っている。
	56	学校関係者評価結果を公表しているか	3.7	毎年学校関係者評価結果をホームページに公表している。
4) 教育情報の公開	57	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3.5	三郷校だよりをホームページに掲載しているが、十分とはいえない。
		平均	3.6	
課題	・ 学生の SNS 等における情報リテラシーが十分といえない。 ・ 三郷校だより掲載回数の増加を図る。			
今後の改善方策	・ 学生に対する情報リテラシー教育を更に行い強化を図る。 ・ ホームページ掲載の工夫を行い、レスポンス良い掲載を図る。			

X 社会貢献・地域貢献

中項目	小項目		評価	根拠
1) 社会貢献・地域貢献	58	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.6	地域共生協創検討委員会を中心に、地域と密接な教育活動が昨年よりも行われている。
	59	国際交流に取り組んでいるか	2.3	学生・地域間交流事業の英語版チラシの作成や学生個人での海外ボランティアの参加など着実に取り組みを増やしているが、今後更なる取り組みを検討する。
2) ボランティア活動	60	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3.6	科目「ボランティア論」をふまえた教科内・教科外活動で実施しており、ボランティアへの取り組みを発表する機会を設けた。今後更なる持続した活動を検討する。
		平均	3.2	
課題	・ 学生及び教職員による地域共生協創の取り組みの分析と持続性の継続 ・ 国際化社会における活動の多様性の検討			
今後の改善方策	・ 地域共生協創のブランディングと持続性の検討 ・ 国際交流に関する情報共有機会と検討			